MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

2019. 12. 17　発行元

第 17 号　伊藤　剛

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

内田康夫　ベスト表

今度は、内田康夫のベスト表。内田康夫は昨年亡くなった。体調を悪くしていたことは２・３年前から知っていたが、やはり、亡くなったと聞くとショックである。たくさんの作品を残してくれたことに感謝したい。

全作品は140冊ぐらい

内田康夫のミステリ全作品数は、私が数えたところでは１４０冊ぐらいだと思う。（紀行文・エッセイ集を除く）　私の読書数は１３０冊で、ほとんどの作品を読んだと言える。（上下巻の長編を数編と、短編集を少し残している。）

ベストセラーになったものが多く、多くの読者に支えられて、どこの図書館でも揃えているので、比較的手に入り易い作家のひとりである。少し前には、テレビドラマにもたくさん取り上げられ、世の中に広く知られたミステリ作家と言えるだろう。

安定した作品レベルの作家

右に、『ベスト表』を示してみたが、書きながら思うことは、内田康夫という作家は、非常に安定した作品を作る人であり、点数付けをして順位をつけようにも、作品の出来に差がなくて困ってしまうのが本当のところである。

「ずば抜けた傑作がない」とも表現できるが、「いずれも一定レベルに達した作品揃い」とも表現できる。「駄作のない作家」とも言えるだろう。

読んでいて安心感がある。裏切られることがない。ひねくれたところがなく、真正直な作家だとも思う。

ハードカバーで見た時、背表紙が厚くて、迫力を感じることもあったが、実際に読んでみると、人物関係が把握しやすく、集中すると一気に最後まで読んでしまう。こういうところが大衆受けする所以だろうなぁと思う。

というわけで、右の『ベスト表』の順位は「一応の参考」程度に見てもらえればよい。また、この表に載らなかった作品も、それほど見劣りするわけではないと思ってもらえればよい。

浅見光彦シリーズなど

内田の作品は、浅見光彦シリーズが中心を形作ってはいるが、浅見シリーズができる以前の初期の作品も力作が多い。私は、どの作家も、デビュー直後の作品を上位に据える傾向があるので、右表の中にも初期のものが優先して入っている形である。また、信濃のコロンボ・シリーズなども面白い。

トラベル・ミステリの要素と、歴史を踏まえた内容構成が、新しい知識を読者に伝えてくれる。

右のベスト表にはあまり顔を出していない最近の作品は、私の思いからすると、ちょっと長過ぎのものが多い気がする。力がこもっているのはよく伝わってくるが、もう少し短くまとめても良いのではないかと感じている。

内田康夫は３つの時期に読んだ……私が内田康夫作品を読んだ時期は３つの時期に分けられる。最初は、内田康夫が登場した初期の頃に、出版と同時に読んだのが２０作くらい。ちょっと飽きてしまって、今から１０年くらい前に、思い直したように３０作くらい。それから、ここ５年くらいの間に全作品を読み尽くそうと決心して残り８０作くらいを読んだ。気軽に読めるのが有り難い。

《内田康夫作品のベスト表》

１．天河伝説殺人事件
２．平家伝説殺人事件
３．津和野殺人事件
４．天城峠殺人事件
５．後鳥羽伝説殺人事件
６．本因坊殺人事件
７．江田島殺人事件
８．神戸殺人事件
９．死者の木霊
１０．長崎殺人事件
１１．佐渡伝説殺人事件
１２．軽井沢殺人事件
１３．十三の墓標
１４．シーラカンス殺人事件
１５．白鳥殺人事件
１６．遠野殺人事件
１７．終幕のない殺人
１８．華の下にて
１９．箱　庭
２０．王将たちの謝肉祭
２１．夏泊殺人岬
２２．日蓮伝説殺人事件
２３．箸墓幻想
２４．「須磨明石」殺人事件
２５．「紅蓮の女」殺人事件
２６．遺譜　浅見光彦最後の事件
２７．博多殺人事件
２８．風のなかの櫻香
２９．「信濃の国」殺人事件
３０．湯布院殺人事件
３１．鬼首殺人事件
３２．琥珀の道殺人事件
３３．「荻原朔太朗」の亡霊
３４．恐山殺人事件
３５．貴賓室の怪人・飛鳥編
３６．鄙の記憶
３７．藍色回廊殺人事件
３８．倉敷殺人事件
３９．戸隠伝説殺人事件
４０．隠岐伝説殺人事件

以下、まだまだ続く。全１４０冊のうちの４０位までを記載した。あくまでも私個人の好みの順位づけである。
短編集もあるにはあるが、断然、長編の方が評価が高い。間違いなく、内田康夫は「長編」作家である。